

第1問

5 10 15 20 25 30

5 律令に基づく個別人身支配が目指された律令制期には、全国から徴発された仕丁や、歳役にかえて徴収する庸を財源とした雇役によって工事が行われた。一國統治を委ねられた受領が官物・臨時雑役を徴収した摂関期には、成功や重任を目指す受領によって工事が請け負われた。荘園公領制が進展する院政期には、国衙領・荘園を問わず賦課する一國平均役により全国から税を徴収してまかなわれた。

第2問

5 10 15 20 25 30

5 有力守護家の家督継承には、惣領の判断に加えて一族や家臣の支持が尊重されたものの、将軍の意向が強く反映され、家督は安定的に継承された。しかし、嘉吉の変で将軍権威が失墜すると、家督継承に関し、守護が将軍の判断を覆したり、守護の有力家臣が関与するなど一族の内紛が激化し、これが応仁・文明の乱の一因となった。

第3問

5 10 15 20 25 30

5 A 寄席は、富裕町人層向けの歌舞伎と比べ、江戸で急増した下層民に、日常仕事の合間にも容易に享受できる安価な娯楽を提供した。
B 天保の改革では庶民も対象とする厳しい儉約令が発されたが、天保の飢饉の影響で都市下層民の生活が困難となるなか、娯楽の規制は不満をためた彼らを中心とする打ちこわし発生の恐れがあった。

第4問

5 10 15 20 25 30

5 A 冷戦下で吉田内閣はアメリカに追随する外交政策をとっていたが、東西対立が緩和するなか、鳩山内閣はソ連と国交を回復させ、岸内閣はアメリカとより対等な関係を目指して安保条約を改定した。
B 鳩山内閣の改憲を阻止する議席を獲得した左派・右派社会党が再統一を果たすと、保守政党も合同し自由民主党が結成されて保革対立が明確となり、後に岸内閣の安保改定を巡り対立が先鋭化した。